

カイコからカイゴへ

繭の家から紡ぎだす村の福祉

〈縁家プロジェクト〉

養蚕住宅が持続可能なコミュニティ再生への拠点となる

消滅した養蚕業の遺産となる築117年の養蚕住宅を地域コミュニティづくりの拠点として再生する。3年前に開設した地域密着型通所介護そらいろデイはその第一歩。介護は特別な場所で特別な事をするのではない。当たり前暮らしを当たり前に送ることを支援するケアである。当たり前暮らしとは、口からおいしく食べ、ぐっすり眠り、たっぷり飲み、トイレにすわってすっきり排泄し、お風呂にゆっくりつかり、多様な人と豊かな関係をつくり、遊びを夢中で楽しむことこそ、高齢者を元気づける元である。こうしたケアの場を要介護老人だけでなく、不登校や引きこもりといったケアの狭間にいる人たちも含めたイデコロとなり、ナリワイづくりにつながる地域に開かれた拠点となる。

事業の背景 この地域の抱える課題

福島県伊達郡桑折町伊達崎是全国有数の桃の産地で果樹園が広がる地域である。また、古くから養蚕業で栄えた村でかつては多くの家で繭が作られていたが現在は養蚕業は消滅。近年は人口減、少子高齢化により離農、耕作放棄地、空き家が増加。地元小学校も児童数は70人と最盛期の6分の1に。市街化調整区域という縛りの中、空洞化が進行。将来コミュニティは存続していけるのか。やがて無住の地になるのではないのか。そんな地域に向き合い、かつての地域産業であった「カイコ」の養蚕住宅を地域で直近の問題である「カイゴ」へ転用し介護をベースとした新しい縁を紡ぎだす地域福祉づくりへの取り組み「縁家プロジェクト」を提案する。



「そらいろデイ」 これまでの歩みと地域との歩み

「村の中で介護の場をつくり、生活の場が介護の場となり、終の棲家をつくる」そんな思いで2019年からそらいろデイの開設に向けて動き出す。近隣住民のサポート、県との協議を重ね1年を経て「地域密着型通所介護そらいろデイ」の開設にこぎつける。当初は認知度も低く問い合わせも少なかったが、次第に利用者も増えて地域にそらいろの存在が広がっていく。2022年、地域のみならず介護を考える運営推進会議を立ち上げる。村の関係者達が集まり地域の介護について話し合いを持つ。2023年、認知症ケアセミナーを町の社協との共催で開催。そらいろデイでも定期的に講師を招いて介護技術講習会を町のバックアップのもと開催。多くの地域住民が参加し改めて地域における介護の重要性を認識。2024年11月、町主催の介護技術講習会をそらいろがコーディネーターとして協力、準備中。町との相互協力関係が地域における活動の広がりを後押しする。また、高齢者だけではなく多様な世代の受け皿となるべく新事業を展開していくことに。町と県もそらいろの活動に理解を示し、今後は行政と共に活動を展開していきたい。



カイコからカイゴへ そしてその先の「5つのカイ」へ



